

リニューアル
しました！

伊那市内の学校の様子や地域の皆さんとのつながり、講演会の話題などを紹介します

広報紙

えがぁ



令和7年度
No.2
7月7日



バックナンバー

伊那市よりよい教育環境推進連絡会

春富中学校

5/23

「キャリア教育講演会」



春富中学校で、PTA
と学校との共催による
「キャリア教育講演会」
が開かれました。



講師の 城村 義人 さん

講師は、長野県PTA連合会の会長の城村 義人（しろむら よしと）さんです。城村さんは、駒ヶ根高原教会の牧師として働く傍ら、養育里親制度の里親として悩みを抱えている家庭に寄り添うことや全国各地での講演を行う等々、多方面でご活躍です。

この日は、「キャリア教育」ということで、城村さんが講師として関わる、赤穂高校商業科の「やっちゃえブライダル」という高校生が結婚式をプロデュースする課題研究授業のことをお聞きしました。高校生は、「プランニング」、「ヘアメイク」、「飲食」、「映像制作」等々、10種類の仕事をチームに分かれて、プロの指導を受けながら、結婚式に必要なことを自分たちで考えて、自分たちで全てをやります。

結婚式が終わった後、高校生たちは、自分の「精一杯」を尽くして行ったことが誰かを幸せにして、その姿を見て自分も幸せを感じ、心からありがとうと言える気持ちになっていくのだそうです。そして、「タレントのたとえ」という話から、自分が与えられた能力を「精一杯」発揮して社会に貢献することが大事だけれど、能力はそれぞれ違うので、「精一杯」は自分に問うてみて、それが自分の精一杯だったら、それでいいとも話されました。



最後に、将来を考えたとき、「職業」より前に「生き方」を考えることが大切だということ、また「ピースメーカー（平和をつくる人）になりなさい。」「自分でできる精一杯を尽くして、誰かを幸せにしてください。」と生徒の皆さんに呼びかけ、講演を締めくくられました。高校生や春富中の先輩の実際の姿を通して、生き方を考える大切さを教えていただいた講演会でした。

伊那西公民館・伊那西小学校創立75周年記念講演

5/31

防災講演会「乱にいて治を忘れず、治にいて乱を忘れず」



伊那西公民館・伊那西小学校創立75周年記念講演が、講師に宮城県東北大震災語り部で元南三陸町立志津川中学校長の菅原 貞芳（すがわら さだよし）さんをお迎えして、伊那市役所多目的ホールで開かれました。この講演会は、伊那西小学校の有賀校長先生が、震災後からボランティアとして志津川中を訪れていたことが縁で実現しました。

震災後、志津川中学校は1次避難所となり、菅原さんは校長として、その運営を任されました。様々な苦労があった中、まずお話をされたのは、「トイレ」のことでした。「整然とした避難所運営のためは、トイレ対応が



講師の 菅原 貞芳 さん

重要」等の理由からです。手作りトイレに、切ったペットボトルで雪をすくい、解かして水を流したことや 20 基の仮設トイレが届いたのは 3 月 19 日で、数が多いと掃除が行き届かず使用しなくなるため、5 基を使用したというお話でした。また、被災第 1 夜に志津川中学校の生徒が口にした食べ物は、保護者が届けてくれたチョコレートやあめ玉だけだったそうです。

そのような中で、避難所運営をしながら、菅原さんが学んだこと（乱にいて治を忘れず）は、「情報共有」「弱者優先」「安全（衛星）確保」の運営方針、



がれきの中を登校する志中生(6/13)

校庭の有効利用、部屋割の工夫、リーダーの育成、支援物資の配布順、衛生的な避難所づくり等でした。

10mの津波に志津川町の 6 割が流され、半分の生徒は家を失い、12 名の生徒が親を亡くし、1 名の生徒が両親を亡くしました。そんな状況の中で、避難所運営に大活躍した中学生の姿に、胸を強く打たれました。

最後に、伝えたいこと（治にいて乱を忘れず）として、日常から取り組む準備についてお話していただきました。菅原さんの語りから、当時の苦労やそこで頑張っていた人たちの気持ちを想像したり、改めて備えを進めて行かなければならないと思ったりした講演会でした。

伊那市人権同和教育研修会「満蒙開拓富貴原郷開拓団

～わたしたちの郷里から満蒙開拓に行った人たち～ 6/3



満州国の旗

毎年 2 回、伊那市人権同和教育推進委員の皆様、市内小中学校の人権同和教育担当の先生方、市役所人権関係 7 課の職員が集まって人権同和研修会を行っており、今年度第 1 回の研修会が開かれました。



講師の 柴 秀毅 さん

前半は、講師に箕輪町郷土博物館館長の柴 秀毅（しば ひでき）さんをお招きし、『満蒙開拓富貴原郷開拓団～わたしたちの郷里から満蒙開拓に行った人たち～』と題して、講演をお聴きしました。富貴原郷開拓団は現在の伊那市である西箕輪村・伊那町・西春近村を含む北部 10 か村で構成されたこと、満州に渡り中国の人が使っていた家や土地を自分たちのものとして生活を送ったこと、「大陸の花嫁」として満州に渡った女性のこと、

終戦後の逃避行のこと等をお聴きしました。その後、無事に帰国した方々が自らの体験を記した「手記」を紹介していただき、それぞれの文章から、その時の情景を想像し、胸に深く刺さりました。

【講演会の感想】

- ・満蒙開拓団について学ぶことは、戦争がとても身近なところでも関係していたことを知るととても大切な事柄だと感じました。広島の小学生在が原爆のことを学んでいるように、上伊那の小学生在が満蒙開拓団のことを学ぶ、という話がとても腑に落ちました。
- ・手記の生々しさ、そして書いた人の無念さが強く伝わりました。この手記はいつか教材にしたいと思いました。
- ・実際の証言や手記など数多く取り上げて下さり、「戦争はやってはいけない」という言葉の意味をより重みをもって感じる事ができました。人々の生の声に迫る資料も活用しながら、授業をしていきたいと思いました。

後半のグループ協議では、小中学校の先生方がグループに分かれて、講演からどんな授業ができそうか話し合い、タブレットを使ってスクールタクトに授業案を入力し、最後に全体で共有しました。どのグループも熱心な協議を通して、他の先生の意見を聞いて学んだり、授業の展開が見えてきたりと、充実した研修になりました。

【グループ協議の感想】



- ・本日のグループ協議は非常に有意義な時間でした。「子どもたちにわかりやすく伝えるにはどうしたら」と熱く語り合うことができたと感じました。
- ・満蒙開拓で日本人が踏み躪った、あるいは踏み躪られた権利について、生徒とともに深く学ぶためにはどうすればよいか、さまざまな視点を得ることができました。

長谷中学校「未就園児さんとの交流」



6/18

長谷公民館の「くじらくらぶ」と
高遠町公民館の「さくらんぼキッズ」

「未就園児の親子が対象の講座です。今回、両公民館が長谷中学校に呼びかけて、未就園児さんと中学生との交流活動として、サツマイモの栽培をすることになり、この日は、長谷中学校の農園にサツマイモの苗を植えました。中学生の皆さんが、手際よく準備や手伝いに動いてくれたおかげで、親子で楽しく苗を植えることができました。サツマイモは10月に収穫して、11月に「焼いも大会」をする予定です。



苗の植え方を説明。



マルチに穴をあけて、



「ここに植えるんだよ。」



苗に土をかけています。



何をお話したのかな？



穴をほります。



だっこしてもらいました。



水やりをしてくれました。



美しい山をバックに、記念撮影をしました。

西箕輪公民館 戦後 80 年平和企画講演会 「上伊那の農地を開墾した 朝鮮青年兵をたずねて」 6/21



西箕輪公民館の戦後 80 年平和企画講演会が、飯田市歴史研究所調査研究員の原 英章（はら ひであき）さんと「上伊那の農地を開墾した朝鮮青年兵をたずねて」という連載記事を月刊誌に執筆中の竹内 恵子（たけうち けいこ）さんを講師にお迎えして行われました。

はじめに、原さんから、農耕勤務隊（農耕隊）についての説明を聞きました。農耕隊は、日本の植民地だった朝鮮半島で徴兵された 12,500 人の朝鮮の青年たちのことで、日本に連行され、奴隷のような扱いの中で、平地林の開墾やサツマイモの栽培などの農作業に従事させられました。上伊那には 2,500 人、そのうち西箕輪には

250 人が入りました。本土決戦に備えた航空機燃料の原料生産が目的だったとされ、1945 年 5 月に上伊那に来て 9 月には帰国し、記録も焼却処分されたため、小学校の学校日誌・聞き取り・残っている留守名簿から調査しま



講師の 原 英章 さん



講師の 竹内 恵子 さん

した。原さんは、「農耕隊のことを知る意味は、朝鮮の青年たちによってここが耕地になったことと、青年たちへの様々な加害行為があったという事実です。」とお話を締めくくられました。続いて竹内さんからは、聞き取りした証言を中心にしたお話を聞きました。国民学校の南校舎に青年兵が宿泊していたことや青年兵と地元の人とのかかわり等、様々な証言の中で、共通していた証言は、朝鮮兵はひたすら働かされて、日本兵は指図だけしていたこと、逃亡兵は柱に縛りつけられ 3 日食事が与えられなかったことだったそうです。また、残されていた「留守名簿」をもとに、韓国に戻った元農耕隊の方にお話を聞くこともできたということです。最後に、「戦争を自分のこととして考えるために、伊那には飛行場があってあと数日終戦が遅れていたら、空爆に遭っていたかもしれないと考えてみる。戦争を繰り返さないために、歴史の本を読んだり経験者の話を聞いたり、おかしいと疑問を感じたら発言したり、周りの人と話し共感者をさがしてみるとよいのでは。」とお話されました。

西箕輪公民館では、戦後 80 年平和企画の第 2 弾として、7 月 26 日（土）13:30 分～映画「いのちありて」の上映と体験者のお話が予定されています。

高遠中学校・長谷中学校 6/23 「インドネシアの学校との交流」



高遠中学校・長谷中学校の生徒の皆さんさんとインドネシア「プライムワンスクール」の生徒の皆さんとの交流会が高遠中学校の体育館で行われました。そして、交流会

会はほぼ英語で進められました。「おもてなしスピリット」に溢れた様々な企画を、両校実行委員会の皆さんが 1 カ月かけて準備し、それを両校全校生徒の皆さんが協力して全力で盛り上げ、プライムワンスクールの皆さんと共に楽しんだ素晴らしい交流会になりました。



民族衣装を着た 10 名の皆さんが、吹奏楽部の演奏で入場。



高遠中学校の学校紹介。スライドは、守屋貞治の石仏です。



長谷中学校の学校紹介。スライドは、ラー油「長谷の太陽」です。



プライムワンスクールの学校紹介。スライドは、学校のユニフォーム。



高遠中学校剣道部の実演。



長谷中学校の太鼓演奏。



プライムワンスクールの皆さんの民族舞踊。



同じ種類の言葉のカードを持つ人を探してグループを作るゲーム。



グループ対抗クイズ大会



プレゼント交換



全員で記念撮影をしました。



アーチをつくってお見送り。